

## マコガレイ種苗の放流について

マコガレイは、茨城県沿岸における重要な漁獲対象種です。主に底曳網、はえ縄、固定式刺し網で漁獲され、平成26年以降は年間3～54トンが水揚げされています。

茨城県では、水産資源の維持・増大を図るため、種苗(稚魚・稚貝)を生産し、海に放流して育てる「栽培漁業」を行っています。マコガレイは、「第8次栽培漁業基本計画」の対象種として選定されており、水産試験場では、適切な放流の手法や効果について検討するため、毎年15万尾を目標に種苗の試験放流を行っているところです。



写真1 マコガレイ稚魚

## マコガレイの種苗生産

マコガレイの種苗は鹿嶋市に所在する茨城県栽培漁業センターで生産しています(写真1)。本年は1月から孵化した仔魚を育成し、5月下旬に全長21.1～83.1mm(平均57.8mm)の種苗約19万尾が生産できました。また、昨年度までは全長30mmを目標に生産していましたが、放流する種苗のサイズの違いによる放流効果の比較を行うため、今年度より、放流する種苗は全長50mmを目標に生産を行っています。

## 種苗の放流

生産された種苗は、一昨年度(令和3年度)までは常陸那珂港周辺で放流していましたが、放流場所による効果の比較を行うために、昨年度(令和4年度)より鹿島港周辺にて放流を行っています。今年度は令和5年5月23、24日に、合計約19万尾の稚魚を放流しました(図1、写真2)。

種苗は平均全長57.8mmと小さいため、目印として外部標識をつけることはできません。そのため、頭の中にある耳石という組織に標識を付けています(写真3)。今回は、約3万尾の種苗に標識を付けて放流しました。

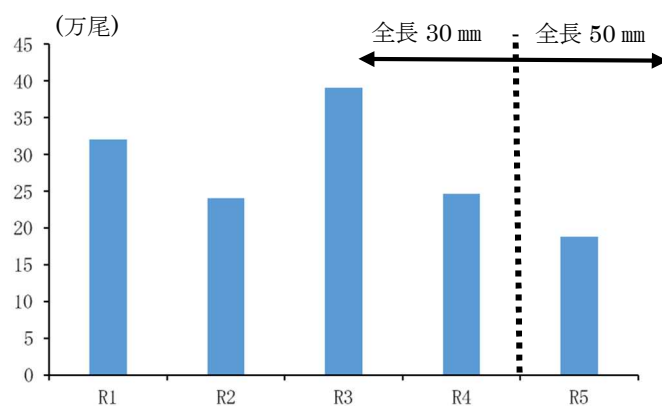


図1 年度別のマコガレイ種苗の放流尾数



写真2 放流作業の様子

(令和5年5月23日鹿島港内)

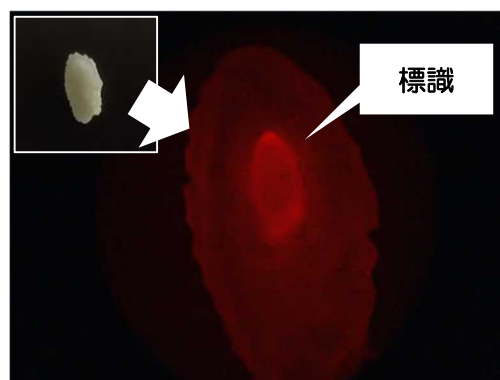


写真3 標識が付いたマコガレイの耳石

(標識付け後、2年間飼育した個体)

## 種苗の成長と追跡調査の実施

マコガレイは1年で全長15cm、2年で25cm、3年で30cmほどに成長するため、現時点では令和3年以前に放流した種苗が漁獲加入していると考えられます。水産試験場ではこの頃のマコガレイに焦点をあてて、放流した種苗がどの程度漁獲加入しているかの調査を行っています。

今後ともマコガレイの調査にご理解、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

(定着性資源部 浦本高志)